

2015年東北・関東豪雨で被災した歴史資料を乾燥させ返却しました(2016/8/19)

テーマ：2015年9月台風17・18号 茨城県常総市・下妻市
場所：茨城大学人文学部

2015年9月に発生した台風17・18号の影響で、東北・関東各地で大きな被害が発生しました。そのなかで、茨城県常総市では鬼怒川流域で被災した個人宅から大量の古文書や掛け軸が確認され、茨城大学等によって救出されました。また下妻市でもふるさと博物館が被災し、所蔵品の一部に被害が及びました。これらの歴史資料について、茨城大学からの要請に基づき、当研究所の天野真志助教（人間・社会対応研究部門 歴史資料保存研究分野）が被災した水濡れ状態の古文書類約1,000点を真空凍結乾燥法により乾燥させていきました。

2016年7月にほぼ全点の乾燥を完了したため、茨城大学人文学部と協議の上、8月19日に乾燥させた歴史資料を茨城大学に返却しました。ただ、乾燥させ急速な劣化を抑制させたものの、強烈な臭気は依然として残っており、破損部分の確認から整理作業に至るまで、救われた歴史資料の保存には、今後も長期にわたる取り組みが必要となります。今後、茨城大学と協力しながらこれらの対応を継続し、被災地域の歴史文化を継承する取り組みを支援していきます。



2015年9月 茨城から搬入された歴史資料



救出された歴史資料



真空凍結乾燥装置による乾燥



茨城大学に返却された歴史資料